

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790100303		
法人名	有限会社 博永興産		
事業所名	グループホーム オアシスK		
所在地	香川県高松市飯田町705番地		
自己評価作成日	令和 4 年 9 月 16 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナの影響により関りが少なくなっているが、行える範囲で地域住民との関わりを大切にして地域の方々との交流の場ができるように目指しています。又、介護情報の拠点や災害時の避難所も地域からお願いされ地域に根付いた施設です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3790100303-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 4 年 9 月 26 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

若いスタッフの女性からも外見がきれいで魅力的な施設である。そして、景色の良い自然に囲まれた環境と併せて、その環境に根付いた地域の方々が、通勤時にも先に声をかけてくれ、挨拶が自然とできて、本当に気持ちがよく、地域が一体となり、やりがいとどんと湧いてくる。地域の方と一緒にごみ当番や溝掃除をしているので、地域密着がさらに深まり、その地の環境整備にも力を注ぐ関係が生まれている。特に、敬老会や公園に地域の方が、藤の花を棚にして鑑賞の場として作られ、見て頂きたいと気楽に連絡をいただき、スタッフも利用者一人ひとりに合わせて喜んで頂こうと地域の思いを伝えながら強く、優しい心配りを提供して鑑賞の現実も窺われた。また、拘束についても真剣に取り組み、スピーチロック表を独自に作られ、すぐ活用できるように、再発防止をしない試みとして、根拠を理解しながら確認し、スタッフ間で共有する場面も真摯に取り組んでいる。利用者の笑顔が垣間見れたのも当たり前前の光景として、ほのぼのとした気持ちになったのは言うまでもない。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目のつく場所に理念を掲示し意識づけを行い業務ができるように努めている。	「いつまでもあなたに寄り添う」という理念を事務所、リビング(書道Verも有)に掲示している。職員は理念を理解するために先輩職員の背中を見て、自ら考えることで学びを深めている。新入職者が一人で仕事ができるように、細かいマニュアルを作成し、可視化している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年もコロナウィルスの影響で地域行事の参加や地域交流ができていないが、参加できる地域清掃等は参加できている。	地域の方が藤の花を公園に吊るしてくれた際には、連絡を頂き、少人数に分けて見学に行った。職員が通勤時には、挨拶を交わす関係が今も継続されている。清掃活動や溝掃除にも積極的に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は運営推進会議等で行っていたが現在は交流や地域行事の参加が難しくあまり活かされていない。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウィルスの影響で、現在は会議を開催することが難しく出席されていた方々へ書類で取り組み内容や状況をお伝えをしている。	社長、自治会長、地域包括、民生委員、地域の方など約10名が参加。コロナ前に、施設内のイベントを開催した際には、地域の人たちも参加してくれたことがあり、地域交流に繋がるがあった。	もっと有意義な運営推進会議にするために、工夫してみたいかがでしょうか。また、どのように伝えていきますか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の資料を郵送で送らせて頂き協力関係が築けるよう努めている。	現在はコロナの関係もあり、郵送でのやり取りに留めているが、何かわからないことがあれば、何でも言える関係が形成されている。コロナ対策に関する有益な情報を頂いている。	管理者だけでなく、介護職員やケアマネも訪問し、交友関係をさらに深めてみてほしいかがでしょうか。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会が会議を定期的開催し、職員間に周知し身体拘束やスピーチロックへの意識づけを行っています。スピーチロックの用紙も作成し引き続き活用している。	委員会は3ヶ月に1回開催。スピーチロックには十分に配慮した取り組みを実施していて、何かあれば誰でもすぐに書き留めることができるカードを事務所に置いたことで、スピーチロックの軽減に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会を開催した時には、職員間に周知し身体拘束やスピーチロックへの意識づけを行っています。スピーチロックについては認知症勉強会でも取り上げて虐待防止の徹底に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学んだ内容を共有し、スタッフ間で活用し支援が出来るように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安な点や疑問点は、その場で説明を十分に行うようにし、理解と納得をして頂けるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し面会や電話連絡の際にはご家族様の意見や要望を確認し、スタッフ間で話し合い介護計画の内容に取り入れ反映させている。	定期的に、家族に連絡をして意見を聴取している。入浴の回数や食事で食べたい物の提供、車いすではなくできるだけ歩行にしてほしいという要望があり、歩行できるように支援をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りノートを活用したり、職員からの意見や質問や疑問点の内容に耳を傾け、対応出来るように努めている。	職員間で出た意見は、管理者に伝えている。仕事の話だけでなく、休憩中にはプライベートの話で盛り上がるくらい仲が良い。申し送りノートを活用したことで、利用者の情報がわかるようになり、職員間の理解も深まるようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の考えや意見を聞き、必要時には研修や資格取得支援を行って向上心を持って働ける環境整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じて、研修参加を促し、得られた技術や知識について、業務で活かせるようアドバイスを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や研修に参加し同業者と交流を持つ事でサービスの質の向上に役立てるよう努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談を行った際にご本人の言動や仕草より汲み取る努力を行っている。又、ご家族より生活歴や趣向、要望をお聞きしご本人の安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安な点や疑問点を聞き、十分に説明しご理解と納得をして頂き心のケアに努めている。又、契約時には起こりえるリスクについて事前に説明しご理解を頂いた上でサービス説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族、他事業所等からの情報を元にニーズ確保に努め、サービス内容に反映できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日ご利用者様が出来る軽作業と一緒にいき生活を共に行うことで信頼関係を築くように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡時にご本人の様子を細かくお伝えし、ご家族から気軽に要望を話して頂ける雰囲気作りにも努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	顔見知りの面会機会を作ることで関係性が途切れないように努めている。現在はコロナ予防の為、短時間でガラス越しやモニターでの面会を行っている。	コロナ対策にて現在は、面会は窓越しで実施しているが、継続して馴染みの人が訪問している。施設内の駐車場、庭の花壇へのお花見、近隣の公園や池の白鳥鑑賞をすることが新たな馴染みの場となり、心も飛び立とうとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係や生活リズムを把握し座席など変更し交流が図れるよう努めている。又、ユニット間の移動を自由にして頂き関係確保に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了したご家族様からの相談も行って頂けるようにお伝えし対応できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の思いを聞き取り、行きたい所や食べたいもの、暮らし方等の希望に添えるよう努めている。意思確認の困難なご利用者からは仕草や言動、会話から意向を把握するよう努めている。	定期的に勉強会を取り入れたり、職員は日頃から利用者一人一人の事を考えて行動したりしているため、思いや意向を把握しやすい。意思疎通が困難な方には、さりげなく体に触れたり、親しみも込めて挨拶をすることで、より意見を言いやすくしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話やご家族や関係者からの情報収集により、これまでの生活歴の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやカンファレンス等を通じて日々の様子を共有し把握するよう努めている。又、定期的に看護師や理学療法士など専門職業との連携により健康状態やADLの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者毎に担当者を設け主に担当者から暮らしの様子を確認しながらモニタリングを行い担当者以外からの意見も取り入れ介護計画の作成に努め、ご本人様やご家族からの希望や要望を出来る限り反映できるように努めている。	介護計画は、3ヶ月に1回・短期目標を、1年に1回・長期目標を作成している。大人数の会議ができない状況なので、担当者やケアマネが個別に意見を聴取し、ケアプランに反映させている。家族と利用者本人にも確認して頂くことで、納得いくプランとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子、健康状態、排泄状況、食事・水分の摂取状況をタブレット記録し内容を共有。必要に応じて細かい様子を記録し対応や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人のニーズに対応出来る様、話し合いを行いご家族へ協力をお願いするなど、柔軟な支援が行えるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で地域集会所や神社などの行事に参加できていないが豊かな暮らしが送れるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望する医療機関等の受診の際は、情報提供を行い、必要に応じて送迎や付き添い等の対応を行っている。又、協力医療機関による定期的な往診も可能であり、協力歯科による往診も行っている。	施設のかかりつけ医に転医される方がほとんど。定期健診の場合は、家族が連れて行くが、急変時の場合は職員が連れて行く。歯科は、口腔ケアは週2回で、何かあればすぐに駆け付けてくれる関係ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日申し送り等により情報交換を行っている。又、協力医療機関に日々報告を行い、適切な受診や看護を受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時より、ご本人やご家族、病院関係者と話し合いを通じ、情報交換を行い、関係性を築けるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に「重度化した場合における対応指針」により終末期における対応について説明を行いご理解を得ている。又、状態変化に応じてその都度、ご家族と話し合いを行いその内容を職員間で共有している。	ターミナルは実施している。ここ数年で実際に看取りを行った。デスカンファレンスも実施し、次の看取りに向けて職員間で意見を出し合っている。看取り期に差し掛かった場合には、再度丁寧に説明をし、同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	誤嚥や窒息、事故発生時などケース別にフローチャートを作成し緊急時に備え夜間帯のオンコールも準備している。又、AEDの使用方法や窒息時などの対応について研修や講習に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時、水害時と別に避難経路図を各ユニットに掲示し毎年2回、避難訓練をいろいろな場面設定で実施している。	昼夜想定で火災と水害対策を実施。色々な場所での災害を想定し、避難場所の確認を行った。避難経路は火災と水害を色分けして見やすくし、玄関と各事務所に掲示している。緊急連絡網は事務所に掲示している。備蓄は、1～2日分の水やマスクを事務所に保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の性格や経歴を把握し言葉使いに注意している。職員間で言葉かけに注意し合えるようスピーチロック用紙を活用しご利用者の尊厳が守れるよう心掛けている。	基本的には、呼称は苗字に「さん」付けで、夫婦の場合は下の名前に「さん」付けで呼んでいる。居室に入る時は、ノックや言葉かけをしてから入室するようにしている。排泄失敗時には、小さな声で周りの人に聞こえないように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類の更衣の際や選択ができる場面では自己決定が行えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や入浴時間をご利用者の要望により変更したり、希望の場所で食事提供を行う等ご利用者が希望に添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みやご家族の意向を確認しながら、状況に応じた服装や身だしなみを提案している。又、必要時には訪問理容や訪問美容の利用調整を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	レクリエーションでおやつ作りや食事作りを取り入れ、楽しみを希望時に実施できるように努めている。食事の準備や下膳も職員と一緒に進められている。	食事は施設の厨房で作ったものを3食提供している。本日の昼食メニューの角煮定食を食べている利用者から「美味しいです」の一言を頂いた。施設内で採れた野菜を使い、利用者と共に料理を楽しんで作ったこともある。季節を味わって頂くために、かき氷や焼き芋の提供もした。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状況に応じて食事形態を変更したり、好みの食べ物を用意する事で栄養や水分確保を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に訪問歯科治療や歯科衛生士による口腔ケアを受けられている。又、口腔状況に合わせて口腔ティッシュや口腔ブラシ、舌ブラシなどご利用者にあった道具を提供し義歯や口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中や夜間帯の排泄パターンを一人一人把握できるようにトイレチェック表を参考にして、トイレで排泄が行えるように言葉掛け、誘導を行っている。	排泄チェック表を活用して、少しでも失敗をしないようにトイレ誘導を行っている。医者と看護師と相談し、下剤の量を減らしたところ、日中のパットをなくせたり、居室中心の生活からリビング生活に変わったところ、オムツからリハビリに変った人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄状況の確認と水分量にも注意し適度な運動が毎日行えるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人様をご自分で好きな時間に入浴できるように言葉掛けを行い、希望される方の入浴は出来る限り行っている。入浴が少し難しい方へは毎日言葉掛けを行うように努めている。	入浴は基本週2回だが、希望に合わせて回数を増やすことも可能。夜だとしてくれる利用者に対しては、夜に入浴を提供している。家族の促しで入浴される利用者もいる。お湯は常に入れ替えているので、新鮮なお湯に浸ることができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活状態を大切に考え、状況に合わせて安心して気持ちよく過ごすことができるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で内服薬の内容を共有し、服薬状況の確認、経過観察を行い、ご利用者様の症状の変化の際にはすぐに報告が行えるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ことは継続して行って頂き、そのご利用者様の役割や楽しみをみつけ、生き甲斐を持てる環境づくりに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルスの影響で、外出支援はあまりできなかったが施設で感染予防に注意できる範囲でのレクリエーションを企画し、外で普段出来ないことを行えるように取り組んでいる。	遠出が出来ないので、施設内での野菜収穫や庭でのお茶会、近隣への花見へ出かけたことで、利用者のフラストレーションが溜まらないように配慮している。近隣の散歩に行くことで、外気に触れられるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設に定期的に訪問販売があり、お小遣いから買い物を行っている。お小遣いについては出納帳を作成し、ご家族様へ毎月確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様に合わせ電話利用や携帯電話を使用されている方へ操作の支援を行っている。年賀状等、必要に応じてご家族様とのやり取りが出来るように支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーションでご本人様が作成した作品を、ホールや廊下、居室内に飾り付けを行って生活感もてるように努めている。	窓の向こうには、一面に広がる雄大な自然を眺めることができるリビングで、利用者は脳トレやティータイムを満喫して過ごしていた。壁面には利用者の書いた書道の作品やぶどう・ハロウィンの作品を掲示することで季節感を味わって頂いている。評価員の質問に対して利用者は笑顔で受け答えをしている姿が印象的だった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人様がご自分で好きな場所で過ごして頂くことが出来るようにテーブルやソファの位置を変更し工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が自宅で使用されていた家具や生活用品等を居室内に取り入れ、安心感が持てる場所になるように努めている。	ベット、エアコン、カーテンが備え付け。壁面に掲示されている、地域の子も達から頂いたカレンダーや手紙を見ることでコロナに負けないように生活をしている。使い慣れたひな人形やぬいぐるみを持ち込むことで、自分らしい居室となっていた。利用者に合った温度調節を提供している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置が分かるように大きく目印をつけ廊下等に手すりを設置し一人一人が安全でご本人様が出来る限り自立出来る部分が継続して行くことが出来るように努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790100303		
法人名	有限会社 博永興産		
事業所名	グループホーム オアシスK		
所在地	香川県高松市飯田町705番地		
自己評価作成日	令和 4 年 9 月 16 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>新型コロナの影響により関りが少なくなっているが、行える範囲で地域住民との関わりを大切にして地域の方々との交流の場ができるように目指しています。又、介護情報の拠点や災害時の避難所も地域からお願いされ地域に根付いた施設です。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3790100303-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 4 年 9 月 26 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>若いスタッフの女性からも外見がきれいで魅力的な施設である。そして、景色の良い自然に囲まれた環境と併せて、その環境に根付いた地域の方々が、通勤時にも先に声をかけてくれ、挨拶が自然とできて、本当に気持ちがよく、地域が一体となり、やりがいとどんと湧いてくる。地域の方と一緒にごみ当番や溝掃除をしているので、地域密着がさらに深まり、その地の環境整備にも力を注ぐ関係が生まれている。特に、敬老会や公園に地域の方が、藤の花を棚にして鑑賞の場として作られ、見て頂きたいと気楽に連絡をいただき、スタッフも利用者一人ひとりに合わせて喜んで頂こうと地域の思いを伝えながら強く、優しい心配りを提供して鑑賞の現実も窺われた。また、拘束についても真剣に取り組み、スピーチロック表を独自に作られ、すぐ活用できるように、再発防止をしない試みとして、根拠を理解しながら確認し、スタッフ間で共有する場面も真摯に取り組んでいる。利用者の笑顔が垣間見れたのも当たり前前の光景として、ほのぼのとした気持ちになったのは言うまでもない。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目のつく場所に理念を掲示し意識づけを行い業務ができるように努めている。	「いつまでもあなたに寄り添う」という理念を事務所、リビング(書道Verも有)に掲示している。職員は理念を理解するために先輩職員の背中を見て、自ら考えることで学びを深めている。新入職者が一人で仕事ができるように、細かいマニュアルを作成し、可視化している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年もコロナウィルスの影響で地域行事の参加や地域交流ができていないが、参加できる地域清掃等は参加できている。	地域の方が藤の花を公園に吊るしてくれた際には、連絡を頂き、少人数に分けて見学に行った。職員が通勤時には、挨拶を交わす関係が今も継続されている。清掃活動や溝掃除にも積極的に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は運営推進会議等で行っていたが現在は交流や地域行事の参加が難しくあまり活かされていない。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウィルスの影響で、現在は会議を開催することが難しく出席されていた方々へ書類で取り組み内容や状況をお伝えをしている。	社長、自治会長、地域包括、民生委員、地域の方など約10名が参加。コロナ前に、施設内のイベントを開催した際には、地域の人たちも参加してくれたことがあり、地域交流に繋がるがあった。	もっと有意義な運営推進会議にするために、工夫してみたいかがでしょうか。また、どのように伝えていきますか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の資料を郵送で送らせて頂き協力関係が築けるよう努めている。	現在はコロナの関係もあり、郵送でのやり取りに留めているが、何かわからないことがあれば、何でも言える関係が形成されている。コロナ対策に関する有益な情報を頂いている。	管理者だけでなく、介護職員やケアマネも訪問し、交友関係をさらに深めてみてほしいかがでしょうか。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会が会議を定期的開催し、職員間に周知し身体拘束やスピーチロックへの意識づけを行っています。スピーチロックの用紙も作成し引き続き活用している。	委員会は3ヶ月に1回開催。スピーチロックには十分に配慮した取り組みを実施していて、何かあれば誰でもすぐに書き留めることができるカードを事務所に置いたことで、スピーチロックの軽減に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会を開催した時には、職員間に周知し身体拘束やスピーチロックへの意識づけを行っています。スピーチロックについては認知症勉強会でも取り上げて虐待防止の徹底に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学んだ内容を共有し、スタッフ間で活用し支援が出来るように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安な点や疑問点は、その場で説明を十分に行うようにし、理解と納得をして頂けるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し面会や電話連絡の際にはご家族様の意見や要望を確認し、スタッフ間で話し合い介護計画の内容に取り入れ反映させている。	定期的に、家族に連絡をして意見を聴取している。入浴の回数や食事で食べたい物の提供、車いすではなくできるだけ歩行にしてほしいという要望があり、歩行できるように支援をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りノートを活用したり、職員からの意見や質問や疑問点の内容に耳を傾け、対応出来るように努めている。	職員間で出た意見は、管理者に伝えている。仕事の話だけでなく、休憩中にはプライベートの話で盛り上がるくらい仲が良い。申し送りノートを活用したことで、利用者の情報がわかるようになり、職員間の理解も深まるようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の考えや意見を聞き、必要時には研修や資格取得支援を行って向上心を持って働ける環境整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じて、研修参加を促し、得られた技術や知識について、業務で活かせるようアドバイスを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や研修に参加し同業者と交流を持つ事でサービスの質の向上に役立てるよう努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談を行った際にご本人の言動や仕草より汲み取る努力を行っている。又、ご家族より生活歴や趣向、要望をお聞きしご本人の安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安な点や疑問点を聞き、十分に説明しご理解と納得をして頂き心のケアに努めている。又、契約時には起こりえるリスクについて事前に説明しご理解を頂いた上でサービス説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族、他事業所等からの情報を元にニーズ確保に努め、サービス内容に反映できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日ご利用者様が出来る軽作業と一緒にいき生活を共に行うことで信頼関係を築くように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡時にご本人の様子を細かくお伝えし、ご家族から気軽に要望を話して頂ける雰囲気作りにも努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	顔見知りの面会機会を作ることで関係性が途切れないように努めている。現在はコロナ予防の為、短時間でガラス越しやモニターでの面会を行っている。	コロナ対策にて現在は、面会は窓越しで実施しているが、継続して馴染みの人が訪問している。施設内の駐車場、庭の花壇へのお花見、近隣の公園や池の白鳥鑑賞をすることが新たな馴染みの場となり、心も飛び立とうとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係や生活リズムを把握し座席など変更し交流が図れるよう努めている。又、ユニット間の移動を自由にして頂き関係確保に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了したご家族様からの相談も行って頂けるようにお伝えし対応できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の思いを聞き取り、行きたい所や食べたいもの、暮らし方等の希望に添えるよう努めている。意思確認の困難なご利用者からは仕草や言動、会話から意向を把握するよう努めている。	定期的に勉強会を取り入れたり、職員は日頃から利用者一人一人の事を考えて行動したりしているため、思いや意向を把握しやすい。意思疎通が困難な方には、さりげなく体に触れたり、親しみも込めて挨拶をすることで、より意見を言いやすくしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話やご家族や関係者からの情報収集により、これまでの生活歴の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやカンファレンス等を通じて日々の様子を共有し把握するよう努めている。又、定期的に看護師や理学療法士など専門職業との連携により健康状態やADLの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者毎に担当者を設け主に担当者から暮らしの様子を確認しながらモニタリングを行い担当者以外からの意見も取り入れ介護計画の作成に努め、ご本人様やご家族からの希望や要望を出来る限り反映できるように努めている。	介護計画は、3ヶ月に1回・短期目標を、1年に1回・長期目標を作成している。大人数の会議ができない状況なので、担当者やケアマネが個別に意見を聴取し、ケアプランに反映させている。家族と利用者本人にも確認して頂くことで、納得いくプランとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子、健康状態、排泄状況、食事・水分の摂取状況をタブレット記録し内容を共有。必要に応じて細かい様子を記録し対応や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人のニーズに対応出来る様、話し合いを行いご家族へ協力をお願いするなど、柔軟な支援が行えるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で地域集会所や神社などの行事に参加できていないが豊かな暮らしが送れるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望する医療機関等の受診の際は、情報提供を行い、必要に応じて送迎や付き添い等の対応を行っている。又、協力医療機関による定期的な往診も可能であり、協力歯科による往診も行っている。	施設のかかりつけ医に転医される方がほとんど。定期健診の場合は、家族が連れて行くが、急変時の場合は職員が連れて行く。歯科は、口腔ケアは週2回で、何かあればすぐに駆け付けてくれる関係ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日申し送り等により情報交換を行っている。又、協力医療機関に日々報告を行い、適切な受診や看護を受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時より、ご本人やご家族、病院関係者と話し合いを通じ、情報交換を行い、関係性を築けるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に「重度化した場合における対応指針」により終末期における対応について説明を行いご理解を得ている。又、状態変化に応じてその都度、ご家族と話し合いを行いその内容を職員間で共有している。	ターミナルは実施している。ここ数年で実際に看取りを行った。デスカンファレンスも実施し、次の看取りに向けて職員間で意見を出し合っている。看取り期に差し掛かった場合には、再度丁寧に説明をし、同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	誤嚥や窒息、事故発生時などケース別にフローチャートを作成し緊急時に備え夜間帯のオンコールも準備している。又、AEDの使用方法や窒息時などの対応について研修や講習に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時、水害時と別に避難経路図を各ユニットに掲示し毎年2回、避難訓練をいろいろな場面設定で実施している。	昼夜想定で火災と水害対策を実施。色々な場所での災害を想定し、避難場所の確認を行った。避難経路は火災と水害を色分けして見やすくし、玄関と各事務所に掲示している。緊急連絡網は事務所に掲示している。備蓄は、1～2日分の水やマスクを事務所に保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の性格や経歴を把握し言葉使いに注意している。職員間で言葉かけに注意し合えるようスピーチロック用紙を活用しご利用者の尊厳が守れるよう心掛けている。	基本的には、呼称は苗字に「さん」付けで、夫婦の場合は下の名前に「さん」付けで呼んでいる。居室に入る時は、ノックや言葉かけをしてから入室するようにしている。排泄失敗時には、小さな声で周りの人に聞こえないように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類の更衣の際や選択ができる場面では自己決定が行えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や入浴時間をご利用者の要望により変更したり、希望の場所で食事提供を行う等ご利用者が希望に添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みやご家族の意向を確認しながら、状況に応じた服装や身だしなみを提案している。又、必要時には訪問理容や訪問美容の利用調整を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	レクリエーションでおやつ作りや食事作りを取り入れ、楽しみを希望時に実施できるように努めている。食事の準備や下膳も職員と一緒に進められている。	食事は施設の厨房で作ったものを3食提供している。本日の昼食メニューの角煮定食を食べている利用者から「美味しいです」の一言を頂いた。施設内で採れた野菜を使い、利用者と共に料理を楽しんで作ったこともある。季節を味わって頂くために、かき氷や焼き芋の提供もした。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状況に応じて食事形態を変更したり、好みの食べ物を用意する事で栄養や水分確保を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に訪問歯科治療や歯科衛生士による口腔ケアを受けられている。又、口腔状況に合わせて口腔ティッシュや口腔ブラシ、舌ブラシなどご利用者にあった道具を提供し義歯や口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中や夜間帯の排泄パターンを一人一人把握できるようにトイレチェック表を参考にして、トイレで排泄が行えるように言葉掛け、誘導を行っている。	排泄チェック表を活用して、少しでも失敗をしないようにトイレ誘導を行っている。医者と看護師と相談し、下剤の量を減らしたところ、日中のパットをなくせたり、居室中心の生活からリビング生活に変わったところ、オムツからリハビリに変った人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄状況の確認と水分量にも注意し適度な運動が毎日行えるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人様をご自分で好きな時間に入浴できるように言葉掛けを行い、希望される方の入浴は出来る限り行っている。入浴が少し難しい方へは毎日言葉掛けを行うように努めている。	入浴は基本週2回だが、希望に合わせて回数を増やすことも可能。夜だとしてくれる利用者に対しては、夜に入浴を提供している。家族の促しで入浴される利用者もいる。お湯は常に入れ替えているので、新鮮なお湯に浸ることができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活状態を大切に考え、状況に合わせて安心して気持ちよく過ごすことができるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で内服薬の内容を共有し、服薬状況の確認、経過観察を行い、ご利用者様の症状の変化の際にはすぐに報告が行えるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ことは継続して行って頂き、そのご利用者様の役割や楽しみをみつけ、生き甲斐を持てる環境づくりに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルスの影響で、外出支援はあまりできなかったが施設で感染予防に注意できる範囲でのレクリエーションを企画し、外で普段出来ないことを行えるように取り組んでいる。	遠出が出来ないので、施設内での野菜収穫や庭でのお茶会、近隣への花見へ出かけたことで、利用者のフラストレーションが溜まらないように配慮している。近隣の散歩に行くことで、外気に触れられるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設に定期的に訪問販売があり、お小遣いから買い物を行っている。お小遣いについては出納帳を作成し、ご家族様へ毎月確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様に合わせ電話利用や携帯電話を使用されている方へ操作の支援を行っている。年賀状等、必要に応じてご家族様とのやり取りが出来るように支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーションでご本人様が作成した作品を、ホールや廊下、居室内に飾り付けを行って生活感もてるように努めている。	窓の向こうには、一面に広がる雄大な自然を眺めることができるリビングで、利用者は脳トレやティータイムを満喫して過ごしていた。壁面には利用者の書いた書道の作品やぶどう・ハロウィンの作品を掲示することで季節感を味わって頂いている。評価員の質問に対して利用者は笑顔で受け答えをしている姿が印象的だった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人様がご自分で好きな場所で過ごして頂くことが出来るようにテーブルやソファの位置を変更し工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が自宅で使用されていた家具や生活用品等を居室内に取り入れ、安心感が持てる場所になるように努めている。	ベット、エアコン、カーテンが備え付け。壁面に掲示されている、地域の子も達から頂いたカレンダーや手紙を見ることでコロナに負けないように生活をしている。使い慣れたひな人形やぬいぐるみを持ち込むことで、自分らしい居室となっていた。利用者に合った温度調節を提供している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置が分かるように大きく目印をつけ廊下等に手すりを設置し一人一人が安全でご本人様が出来る限り自立出来る部分が継続して行くことが出来るように努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない